

探究ワーク 2

戦後を生きた女性たちは、沖縄社会をどのように支えたのか

指導案・生徒用ワークシート(25 分)

探究ワーク:戦後を生きた女性たちは、沖縄社会をどのように支えたのか

沖縄戦では多くの人が命を失い、戦後の社会では人口構成も大きく変化しました。そうした中で女性たちは、家族の生活を支えるだけでなく、仕事、教育、地域活動、平和運動などさまざまな場面で戦後社会の再建に関わりました。彼女たちの経験から、戦後の沖縄を考えてみましょう。

ワーク① 戦後を生きるために

戦争によって家族や住居、仕事を失った人々が多い中、女性たちはどのように生活を立て直していったのでしょうか。

- どのように収入を得たのか
- 家族や子どもの生活をどう支えたのか
- 地域社会でどのような役割を担ったのか
- 基地労働や商業は生活とどう関係したのか

ワーク② 女性の経験は社会をどう変えたのか

戦後を生きた女性たちは、生活を支えるだけでなく、教育、労働、地域活動、平和運動などにも参加しました。こうした活動は、その後の沖縄社会にどのような変化をもたらしたのでしょうか。

- 女性の就労と社会参加
- 女性の権利や地位
- 地域活動・婦人会活動
- 土地闘争や平和運動
- 基地と人権をめぐる運動

出典:沖縄県『沖縄県史 各論編8 女性史』、沖縄県『戦後50年おきなわ女性のあゆみ』、『戦後80年おきなわ女性のあゆみ』を基に作成。

人口構成と解説を手がかりに、生活を立て直すための働きや社会参加を考え、女性たちの経験から戦後の沖縄を捉える。

探究ワーク 2:戦後を生きた女性たちは、沖縄社会をどのように支えたのか

学習指導案 中学生・高校生対象 25 分 A4 2 枚

人口構成の特徴を読み、解説の具体例を根拠に2問を考える。生活を支えた働きと、地域・社会を変えようとした活動を関連づけ、自分の言葉で説明する。

1 本時の目標と準備

目標:①グラフから分かることと推察を分ける。②収入・家族・教育・地域との関係から生活の再建を考える。③女性たちの社会参加と、その意味を具体例で説明する。

準備:提供スライド2枚、人口構成グラフ、ワークシート1枚。映像視聴は事前に行い、4人程度の班をつくる。グラフの対象年・地域・割合の基準は原資料で確認して伝える。画像にない数値や年代を推定して説明しない。

2 本時の展開 25 分

時間	学習活動	教員の働きかけ・指導上の留意点	学習の狙い・評価
5 分	グラフを読み、個人で整理 第1段階に、注目した年齢層や男女の違いを書く。	1分で課題と2問を説明。2分で、青が男・赤が女、縦軸が年齢、横軸が割合であることを確認する。2分で同じ年齢層の棒を比べてメモさせる。 発問①「どの年齢層で男女の違いが見えますか」 発問②「グラフだけでは分からないことは何ですか」 声かけ「まず見える特徴を書き、理由は分けて考えよう」	狙い:資料を読む。 評価:年齢層や男女の比較を根拠に特徴を示せるか。
8 分	解説を読み、2問を対話 第2段階に、生活再建と社会参加の例・意味をメモする。	2分で解説の3項目を読み、仕事や活動に線を引く。問1・2を各2分話し合い、最後の2分で別の理由や立場を探す。順に一人一つ述べ、聞き手は違う見方を加える。 発問①「どの仕事や活動が生活を支えましたか」 発問②「暮らしの困りごとは社会参加とどうつながりますか」 声かけ「具体例と、それが必要だった理由を組にしよう」	狙い:背景と意味を考える。 評価:具体例と生活・社会の関係を示せるか。
7 分	各自で2問に解答 問1に生活の再建、問2に社会への変化を書く。	問1・2を各3分で書き、1分で根拠を見直す。書き出せない生徒には3枚目のヒントを一つ示す。解説に書かれた事実と、自分が考えた意味を区別させる。 発問①「その考えの根拠は解説のどこですか」 発問②「活動によって何が変わったと考えますか」 声かけ「『～という活動から、～と考える』とつなごう」	狙い:根拠のある説明を書く。 評価:具体例・理由・意味がつながっているか。
5 分	再共有と現地の問い 考えを読み合い、加筆して確かめたい問いを残す。	3分で班内の解答を読み合い、別の仕事・活動や理由を一つ加える。2分で現地の問いと確かめ方を書く。内容を一つの結論にそろえる必要はない。 発問①「友達の説明から何を加えられますか」 発問②「現地のどの資料や話で確かめたいですか」 声かけ「まだ分からないことを、具体的な問いにしよう」	狙い:見方を広げる。 評価:加筆と、現地で確かめる問いがあるか。

指導上の留意点

女性の経験を一括りにせず、年齢・家族・地域・仕事による違いに目を向ける。困難を個人の努力だけで説明せず、雇用や教育の条件も考える。現代の貧困を戦後の状況だけに結びつけない。

到達のイメージ

行商や農業、教員、基地関連の仕事などが家計を支えたことを説明できる。さらに教育・福祉・婦人会などの活動が生活上の課題を地域や社会の課題として共有する働きを持ったと、具体例に基づいて考えられる。

解説を活用した問いの深め方と授業の支援

3 解説を読む時の3つの視点

①生活の糧:行商・農業・商売・教員・基地関連の仕事などを確認する。収入を得る方法だけでなく、家族を養う必要と仕事の選択肢の関係を見る。基地経済との関わりには、収入機会と低賃金・不安定な労働の両面があったことを解説から捉える。

②生活再建と教育:住居・仕事・教育環境の不足が、子どもの生活や学ぶ機会にどう影響したか考える。「働く必要 → 学ぶ時間や機会 → 将来の選択肢」とつなぐ。ただし、全家庭が同じ状況だったとはせず、現在の貧困には雇用・所得・家族構成など複数の要因があることも確認する。

③社会参加:教育・福祉・商業・地域活動・婦人会・土地闘争・復帰運動などの例を確認する。家族の暮らしを守る思いが、地域や政治の課題に関わる活動へどう広がったか考える。参加の形や考えには違いがあったことにも目を向ける。

4 各問いの進め方とヒント

問1 戦後を生きるために

問い:家族や住居、仕事を失った人々が多い中、女性たちはどのように生活を立て直していったのでしょうか。

進め方:①解説から仕事や暮らしを支える行動を考える。②誰の生活を、どのように支えたか考える。③仕事・収入と、家族・教育・地域との関係をつないで書く。④14歳以下の神殿が多いことに気づかせたい。さらに1歳以下の子供がほとんどいないことで沖縄社会にどのような影響が残るかを考えさせたい。

基地労働や商業を選んだ場合は、収入を得る機会と働く条件の両方を確認する。

ヒント:「誰が家計を支えたのか?」「働く人を家族や地域はどう支えた?」「仕事の選択肢が少ないと、どんな困難がある?」。収入だけでなく、子育て・教育・地域での助け合いにも視点を広げる。

問2 女性の経験は社会をどう変えたのか

問い:女性たちの教育、労働、地域活動、平和運動などへの参加は、その後の沖縄社会にどのような変化をもたらしたのでしょうか。

進め方:①女性が社会を支える役割を担ってことを確認させる。②背景にあった暮らしの課題(育児と仕事の関係など)を考える。③誰の声や要求が、地域や社会に伝わるようになったかを考える。権利や地位が一度に改善したと決めつけず、変化と残された課題を分ける。

ヒント:「家庭だけでは解決しにくい問題は何?」「婦人会や地域の活動で声を集めると何ができる?」「生活・土地・教育・人権の問題は、どのようにつながる?」。具体的な活動と、社会に対する働きかけを組にする。

5 ヒントを示すタイミング

まずメモを見て「どこで困った?」と尋ねる。例が出ない時は解説の該当箇所を一つ示す。例だけ並ぶ時は「それで誰の何が支えられた?」と聞く。意味を決めつける時は「資料のどこから分かる? 別の経験は?」と戻す。一度に全ヒントを説明せず、示した後は生徒が話し、書く時間を取る。

6 学級に応じた進め方 いずれも25分

プラン	時間配分	特徴と支援のポイント
協働型	資料5分 → 対話8分 文章化7分 → 共有・問い5分	同じ資料から一人一つ例を出す。発言が少ない生徒には、線を引いた語を示して説明を促す。
併用型	資料5分 → 個人整理7分 共有8分 → 加筆・問い5分	先に自分の考えを持つ。共有で別の生活や活動を知り、初稿を残して理由を加える。
自立型	資料5分 → 個人解答7分 比較8分 → 修正・問い5分	根拠と推察の区別、活動と社会の関係を互いに確認する。必要な時だけヒントに戻る。

7 評価と現地学習への接続

資料の特徴、生活・社会との関係、複数の経験への視点を見取る。現地では資料館の生活・労働の展示、商店街や市場、女性の証言などから仕事と地域関係を確かめる。個人の経験を女性全体の代表とはせず、話せる範囲を尊重する。

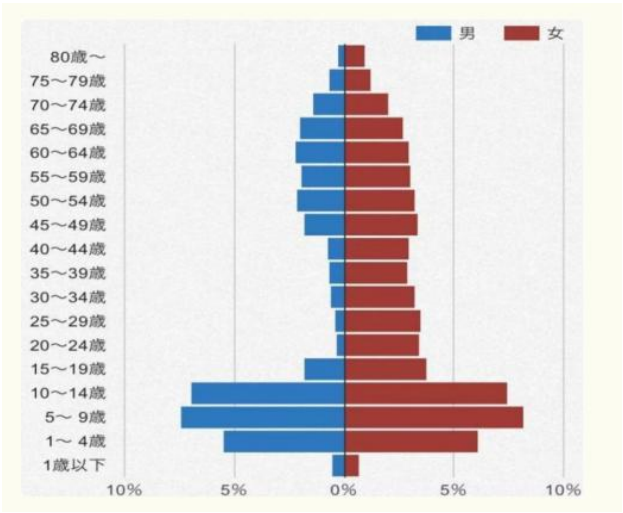
出典:提供の探究ワーク・解説・人口構成グラフ。参考資料は表紙と解説スライドの出典欄を参照。

沖縄平和学習映像教材 探究ワーク 2

戦後を生きた女性たちは、沖縄社会をどのように支えたのか

年 組 番 名前

日付



人口構成グラフ 青:男/赤:女 同じ年齢層の棒を比べよう。

第 1 段階 グラフと解説から分かること

注目した年齢層・男女の違い、年齢構成など、解説にある仕事や活動の例をメモしよう。

第 2 段階 生活と社会とのつながりを考える

「仕事や活動 → 誰の生活をどう支えたか → 社会への働きかけ」をつなごう。

問 1 戦後を生きるために

戦争によって家族や住居、仕事を失った人々が多い中、女性たちはどのように生活を立て直していったのでしょうか。
ヒント:行商・農業・商売・教員・基地関連の仕事と、家族・子ども・地域との関係を考える。収入の機会と働く条件の両方を見る。

問 2 女性の経験は社会をどう変えたのか

女性たちの教育、労働、地域活動、平和運動などへの参加は、その後の沖縄社会にどのような変化をもたらしたのでしょうか。
ヒント:婦人会・教育・福祉・土地・平和・人権などから活動の一つを選ぶ。誰の困りごとや声を、地域や社会に伝えたか考える。

現地で確かめたい問いと確かめ方

資料館・市場・証言などの何を手がかりに、どんなことを確かめたいですか。

25 分 グラフ・解説の事実を根拠に書こう。友達の見方から気づいたことも加えよう。